

画数の多い漢字

画数の多い漢字として筆者の記憶にあるのは、小学生の頃に使っていた漢和辞典に出ていた 29 画の「鬱」である。手持ちの簡野道明「字源」角川書店(1955)によれば 32 画の「籲(やく)」が画数のもっとも多い漢字で、また藤堂明保「漢和大字典」学習研究社(1998)によれば 33 画の「麤(そ)」がもっとも画数が多い。鐘ヶ江信光「中国語辞典」大学書林(1972)の総画索引でも 33 画の「麤(拼音 cū)」が画数最大の見出し漢字となっている。松岡榮志「クラウン中日辞典」三省堂(2008)では「麤」は見出し漢字ではなく「粗」の異体字として「粗」の後の括弧内に掲載されている。

さて日本には図に示すような 84 画の国字があつて、苗字としてのみ使われ、読みは「たいと」又は「おとど」である。この字は「雲」及び「龍」それぞれ 3 文字を使って構成されているが、字体としては、上と下に示す 2 種類があり、上に示す字体は「だいと」又は「おとど」と読み、下に示す字体は「たいと」と読むとされている。ただし、現在これらいずれかの字を苗字として用いている人がいるのかどうかは不明である。



過日、大阪の天王寺で開かれた書道展では、上の右の写真に示すようにこの字(上図下の字)の書が出典された。これを出展した書道家は筆者の知り合いであったので、この漢字を選んだ理由を尋ねてみた。この書道家は、主宰する書道教室の小学生のクラスで、字画数がもっとも多い漢字は何かということが話題になり、それを調べてくることを宿題にした。本人もインターネットで調べてみてこのような字があることを知った。中央の書道展では、このような由来の不確かな漢字の書は出展しないが、今回は身内の書道展で、学生などに漢字に興味をもってもらうためにこの字を採用したとのことである。

一方中国には、下記のような 58 画の漢字があって、下の写真の看板にあるように、この文字二つと「麵」を用いて**𩵚𩵚麵**(biangbiang mian 日本語風に読むとビャンビャンメン)という麵が売られている。標準中国語には bian という発音はあるが biang という発音はなく、biang は、陝西省の方言とされている。麵自身も陝西省が発祥の地らしい。この文字は「康熙字典」や「中華大字典」にも記載されておらず、どういった経緯でこの文字が作成されたのか不明である。漢字の造字法は「象形」「指事」「会意」「形声」「転注」「仮借」の 6 種類に分類されるが、これらのどれに属するのか見当も付かない。



左の写真は筆者が陝西省の省都西安（唐の都長安）を訪れたときに見かけた看板である。麵は幅が 2、3 センチもある平たいうどんのようなもので、使用する野菜や味付けは地方によっても店によっても異なるらしい。筆者は中国のあちこちを旅行した経験があるが、このような看板を見かけたのは西安だけで、そのときこの麵を食べてみなかったのが残念である。

(2019.3.18)